

令和6年9月20日

大宮呉竹医療専門学校
校長 齊藤 秀樹 殿

学校関係者評価委員会

委員長 河原 保裕

学校関係者評価委員会報告

令和6年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告する。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 河原 保裕 (公益社団法人日本鍼灸師会業務執行理事)
- ② 長嶺 芳文 (公益社団法人全日本鍼灸マッサージ師会会長)
- ③ 山本 光彦 (公益社団法人埼玉県柔道整復師専務理事)
- ④ 尾花 正貴 (在校生保護者)
- ⑤ 山岸 克也 (同窓会組織呉竹会会長・第4期卒業生)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

第1回委員会 令和6年9月7日 (会場：大宮呉竹医療専門学校 10階教室)

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

I 重点目標について

重点目標は一部更新され、目標が具体的に設定されていることを確認した。各目標の達成に向けた活動を確実に進められるとともに、入学者及び在籍者数を適正に確保されることを期待する。

各評価項目について

1. 教育理念・目的・育成人材像

理念・目的・育成人材像の設置、関連業界等の人材ニーズに適合、特色ある教育活動、将来構想の設置について確認した。

理念等の浸透度を高める活動を令和5年度の下半期より実施していることを確認したが、全国専門学校卒業生共同調査の結果からは成果を確認できなかったことから、理念等との関係や位置付けについては、全ての在校生に対して授業開始時に説明するなどの対策を徹底されたい。また、授業の目的や達成目標などを示し、理念等の達成により社会に貢献していくことの意識を高められることを望む。

2. 学校運営

理念等に沿った運営方針の設置、理念等達成のための事業計画の設置、適切な組織運営、学校運営組織の整備、人事・給与制度の整備、意思決定システムの整備、情報システム化による業務の効率化の取組等の他以下の取組みについても確認した。

- ① 人事評価において被評価者の自己評価が高くなっていると思われる場合には、二次評価者（校長）の指導により、一次評価者（科長・事務長）が評価者としての育成指導を受け、評価の視点合わせを行う等の対策を講じていることを確認した。
- ② 昇格、昇給の基準の設置などの法人制度の設置・運用に関しては、「教職員の評価・育成制度に関する実施要綱」に則して行われることを確認した。
- ③ 学校単体の予算明細書の作成状況を確認した。

3. 教育活動

理念等に沿った教育課程の編成方針・実施方針の設置、学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルの明示、教育目的・目標に沿った教育課程の編成、教育課程編成委員会の設置、キャリア教育の実施、授業評価を実施、成績評価・修了認定基準を明確化と適切な運用、作品及び技術等の発表における成果の把握、目標とする資格・免許の教育課程上の位置づけ、資格・免許取得の指導体制、資格・要件を備えた教員の確保、教員の資質向上への取

組み、資格・要件を備えた教員の確保等の他以下の取組みについて確認した。

- ① 授業評価結果を授業改善に活用していることについては、令和6年度に入り上長による授業参観等によって確認する取組みを開始したことを評価する。
- ② 教員の資質向上の取組み、昇格、昇給の基準に関しては、「教職員の評価・育成制度に関する実施要項」に基づいて実施していることを確認した。
- ③ 関連業界等との連携による研修・研究に参加する教員を増やすことについては、教員の興味・関心に則して専門性を磨くことのできるようなゼミ活動や特別講座の実施について計画を企画されることを確認した。魅力的なゼミ・講座の開設を期待する。
- ④ 卒業生調査の結果では、“面倒見がよい”、“国家試験対策がよかった”、“授業の進め方が良かった”、“内容が身についている”、“自ら進んで学習に取り組むことが出来た”、などの項目で一定の評価を受けていることに加えて、少数意見に対して様々な対応を行う方針を評価する。一方で、対策により効果を上げるために、ポイントを絞って着実に取り組まれない。
- ⑤ 呉竹学園にはこの分野での教育実績や長い歴史があり立派な卒業生を輩出してきていることを学生にアピールすることや、授業においては学生の興味や関心を引くように一層の工夫を凝らすことによって、入学者の学力や志の高さの差を超えて、主体的な学びを得られるように取り組まれない。

4. 学修成果

就職率向上の取組、資格合格率向上の取組、卒業生の社会的評価の把握について、概ね適切に実施されていることを確認した。以下に確認・指摘事項等を示す。

- ① 12月時点の希望者の就職率が目標を下回ったことから、目標設定や支援方法の見直しを進めていることを確認した。学生がどんな仕事をしたいのか、入学時に実施している将来の計画に関する調査を毎年度確認するとともに、就職先の強みなどの情報を学生に提供できるように取り組まれることを望む。最近では高齢者の機能訓練指導員の業務について求人が増えているので、資格取得の道筋などの案内も強化されたい。
- ② 本校の国家試験合格率は全国水準を上回るものの、より高い目標に向けて取り組まれることを確認した。現実的な目標として設定された中期計画の目標値を確実に達成されることを望む。
- ③ 卒業生の社会的評価の把握に務めているものの情報量が少ないことについて、学生の学外臨床実習施設の卒業生の把握から開始するため、各施設の担当者を決めるとともに学生の臨床実習時に訪問する等により、卒業生に対する評価についても把握される計画を進めていることを確認した。

5. 学生支援

就職等進路支援組織体制の整備、退学率低減の取組、学生相談体制の整備、留学生相談

体制の整備、経済的支援体制の整備、健康管理体制の整備、学生寮等生活環境支援体制の整備、課外活動支援体制の整備、保護者との連携体制の構築状況、卒業生支援体制の整備、産学連携による卒業後再教育プログラムの開発・実施状況、社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備について確認した。以下に確認・指摘事項等を示す。

- ① 関連する企業等との連携を強化するための訪問計画を確認した。また、前年度より早期に内定調査を行い未取得者に対する個別面談を充実させる計画を確認した。学生が納得できる進路を選択できるように支援を強化されたことを評価する。
- ② 中高年の学生に対する就職支援策については、企業の採用意向等のヒアリングや求人紹介システムの追加加入などによる強化策を講じていることを確認した。
- ③ 就職支援について、個別対応を強化される取り組みを評価する。
- ④ 学びに対するモチベーションを維持し、中途退学を防止するためも、入学後も定期的に将来ビジョン等を確認されたい。
- ⑤ 学力不振による退学者を令和4年度よりも減らすことはできたが、全体的に退学率は増加していたため、各科の対応策を確認した。特に1年次には成功体験を積み重ねることのできるような工夫を施されたい。

6. 教育環境

教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等の整備、学外実習・インターンシップ・海外研修等の実施体制の整備、防災に対する組織体制の整備と適切な運用、学内における安全管理体制の整備と適切な運用について確認した。以下に確認・指摘事項等を示す。

- ① 学外臨床実習先の充実を図るため、病院、介護施設の実習先の拡充を進めていることを確認した。
- ② 附設のクリニックでの臨床実習の充実を図られたい。
- ③ 教室や更衣室のロッカー固定については、学科編成や教室用途の変更等の検討と合わせて進めていることを確認した。
- ④ 同好会活動の実施を奨励することにより、学年間の交流を深め、学校内での生活の充実を一層図られたい。

7. 学生の募集と受入れ

高等学校等接続教育機関に対する情報提供、学生募集の実施状況、入学選考基準の明確化と適切な運用、入学選考に関する実績の把握と授業改善等への活用、経費内容に対応した学納金算定、入学辞退者に対する授業料等の適正な取扱について確認した。概ね適切に自己評価されている。

令和6年度の入学者が前年度を大きく割り込んだことから、外部調査機関の協力を得て来校者に対するアンケート調査を開始したことや、専任教員による課外授業（特別講座や

ゼミ形式の集団指導を含む) の増設などにより学校生活の質を高める方策を講じられることを確認した。速やかに企画・実施し、入学者充足率の改善を図られたい。

8. 財 務

学校及び法人運営の中長期的な財務基盤の安定性、主要な財務数値に関する財務分析の実施、教育目標との整合性のある単年度予算及び中期計画の策定、予算及び計画に基づいた執行管理の実施、私立学校法及び寄附行為に基づいた監査の実施、財務情報公開体制の整備と運用について確認した結果、自己評価はおおむね適切に実施されていた。

学校独自の事業報告書についても作成方針を確認した。鋭意作成され、実績に基づいた事業計画の立案に資する活動を進められることを期待する。

9. 法令等の遵守

法令や専修学校設置基準等の遵守と適正な学校運営、個人情報保護に関する対策の実施、自己評価の実施体制の整備と評価の実施、自己評価結果の公表、学校関係者評価実施体制の整備と評価の実施、教育情報に関する情報公開の実施について確認した結果、概ね適切に自己評価されていた。

10. 社会貢献・地域貢献

学校教育資源活用による社会・地域貢献の実施状況、国際交流の取組、学生ボランティア活動の奨励と具体的活動支援の実施について確認した結果、概ね適切に自己評価されていた。

海外研修生の受け入れについて課題としており、本校学生の短期留学については旅費の高騰や国際情勢等を鑑みながら実施される方針を確認した。令和6年度は上海中医薬大学との提携による特別プログラムとして7月に2日間の遠隔授業を希望者に対して実施したことを確認した。

以上